

## 新型コロナウイルス感染症について

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、ヒトに感染するコロナウイルスの一種で、重症度や症状もすごく幅広い感染症です。なぜこれほど幅が広いかというと、年齢と持病によると考えられています。

ほとんどの患者さんは、重症ではありません。

- ・軽症（肺炎がないかあっても軽症）が 81%
- ・重症（呼吸困難、低酸素血症など）が 14%
- ・最重症（呼吸不全など）が 5%

全体的な死亡率は 2.3%で、最重症のケース以外では死者はいません。症状のない方全員に CT 検査を行った所、50%に典型的な肺炎像を認め、残りの 20%に非典型的な肺炎像を認めました。このことから、無症状の人でも約半数の人に肺炎像が認められたことがわかります。

### 重症化のリスク要因

#### ① 加齢

加齢により死亡率は上昇

全体的な死亡率は 2.3%ですが、70～79 歳では 8%、80 歳以上で 15%

#### ②基礎疾患

- a)心不全、冠動脈疾患（狭心症や急性心筋梗塞）、心筋症、心筋炎
- b)2型糖尿病
- c)高血圧
- d)慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎、肺気腫）
- e)悪性腫瘍（特に血液悪性腫瘍や悪性血液疾患、肺がん、癌の転移など）
- f)慢性腎臓病
- g)肥満（BMI30 以上）
- h)喫煙
- i)移植後の免疫不全

### 合併症と後遺症

<合併症：病気が原因となって起こる他の病気>

#### ① 呼吸不全

最も主要な合併症で、呼吸困難が始まってから急激に呼吸状態が悪化する。

#### ②心臓・心血管系障害

不整脈、急性の心臓の障害が報告されている。

#### ③血栓<sup>※1</sup>・塞栓<sup>※2</sup>合併症

血栓・塞栓合併症（肺塞栓を含む）と急性脳卒中（脳出血や脳梗塞）は、リスクとなる要因がない 50 歳より若い人でも起こりうる。

※1 血栓：血管内で血液が固まったもの

※2 塞栓：血栓が血液によって運ばれ、血管が塞がれ、血流が遮断されてしまう状態

#### ④神経学的合併症

脳症は新型コロナウイルス感染症の重症の方で一般的で、1/3 の割合で合併する。

#### ⑤炎症性合併症

重症患者さんで炎症性の合併症があり、例えば、ギラン・バレー症候群<sup>\*3</sup>や、川崎病<sup>\*4</sup>に類似した多系統炎症性症候群も欧米を中心に小児で報告されている。

<sup>\*3</sup>ギラン・バレー症候群：末梢神経の障害で、急に手や足に力が入らなくなる、手足のしびれ感を感じるなどの症状が出る病気

<sup>\*4</sup>川崎病：4歳以下の小児に多く、急に発症する全身の血管炎の病気。心臓の血管（冠動脈）の炎症から、進行すると血管に『こぶ』ができ心筋梗塞を起こすこともある病気。

#### <後遺症：病気の治癒後にもなお残る機能障害>

##### ① 全身倦怠感、脱力感、栄養状態不良

全身倦怠感は、新型コロナ感染症後に最も多い症状。たいていの患者さんは回復するが、重症者では3ヶ月もしくはそれ以上回復するのに時間がかかる。

##### ② 呼吸困難

呼吸困難や息切れなどの症状がある方は2~3か月以上で回復している。

##### ③ 慢性的な咳

発症後2~3週間は咳が持続し、回復するのに3か月くらいかかるのが一般的である。

##### ④ 胸部不快感（胸の痛みや動悸、胸のもやもやした感じ）

一般的な症状で、12~22%の方が2~3か月で回復している。

##### ⑤ 味覚と嗅覚障害

発症後1か月ほどで回復することが多いといわれている。

##### ⑥ 集中力と記憶障害の障害

退院後、6週間もしくはそれ以上かけて回復している。

##### ⑦ 精神的な障害

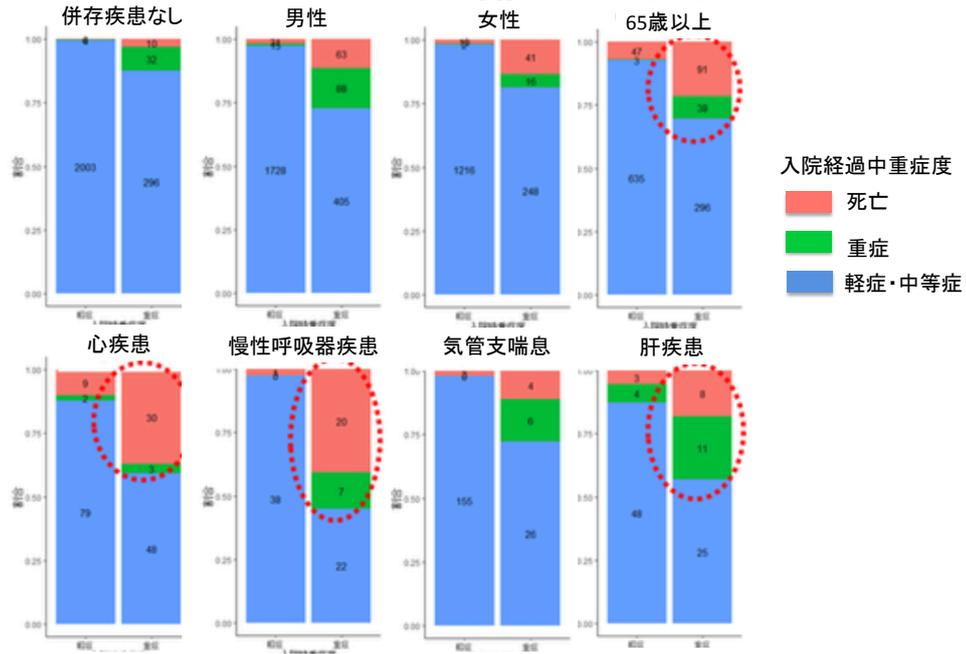
PTSD<sup>\*5</sup>は、感染症後一般的に生じ、その中でも不安障害が多く報告されている。精神的な症状は、時間をかけて回復するが、3ヶ月経ってもまだ症状が持続しているということもある。

<sup>\*5</sup>PTSD：心的外傷後ストレス障害。強烈なショック体験、強い精神的ストレスが、心のダメージとなり、時間が経ってからもその経験に対して強い恐怖を感じるもの

#### ・年代別主な症状の発生頻度

	1位	2位	3位
20歳未満 (n=2)	-	-	-
20歳代 (n=12)	嗅覚障害 (50%)	味覚障害 (47%)	たん (33%)
30歳代 (n= 6)	せき (50%)	呼吸困難 (50%)	倦怠感 (50%)
40歳代 (n=15)	せき (33%)	倦怠感 (27%)	呼吸困難 (27%)
50歳代 (n=10)	せき (80%)	倦怠感 (40%)	呼吸困難 (40%)
60歳代 (n= 8)	せき (50%)	嗅覚障害 25%	呼吸困難 (25%)
70歳以上 (n=10)	せき (60%)	倦怠感 (60%)	呼吸困難 (60%)

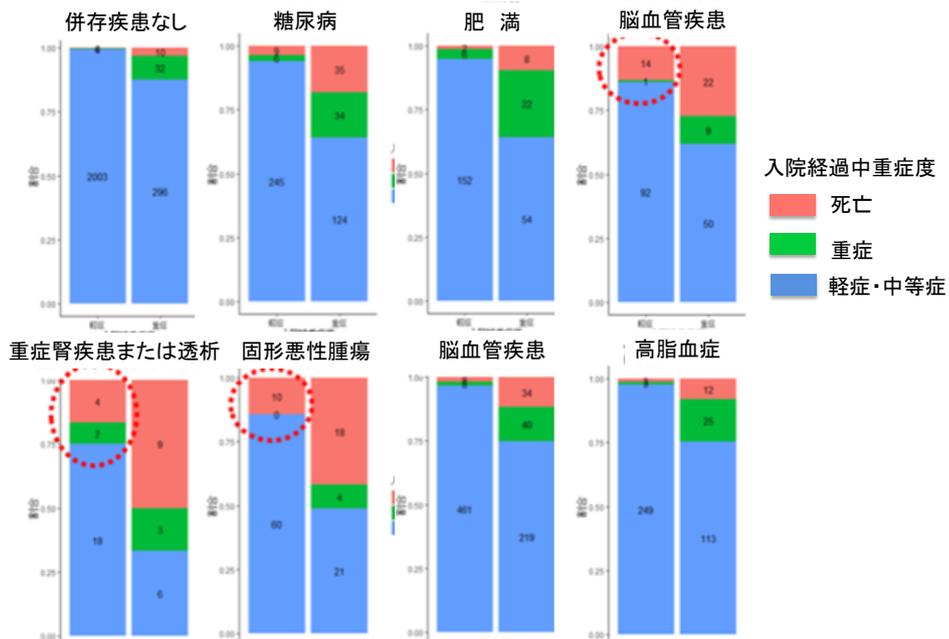
・患者さんの持つ背景因子ごとの重症化・死亡率を棒グラフにまとめたもの



2本のグラフのうち、左側は入院時に軽症、右側は重症の方を示しています。色は、その後の入院経過を示す赤色が「死亡」、緑色が「重症」、青色が「軽症/中等度」を表します。

「65歳以上」、基礎疾患がある場合などは、緑色や赤色の比率が高く、重症化するリスクや死亡するリスクが高い傾向があったことが見えてきます。

もう少し別の背景因子から見ていくと、少し違った傾向が見えてきます。



これは、今回の研究では、「脳血管疾患」、「重症腎疾患または透析」、「固形悪性腫瘍」のある方は、入院時に軽症であっても、重症または死亡に至った割合が高かったことを表しています。

- ・「入院時重症例」と「人工呼吸器管理をした患者数」を年齢別にまとめたもの

12月28日時点での入院時重症例の累計のうち人工呼吸器管理をした患者の数 (全国)			
・20代、30代でも、入院時酸素が必要な症例が約8%存在し、一部は人工呼吸器が必要な患者もいた。			
年齢	全患者	入院時重症例	入院時重症例のうち人工呼吸器管理をした患者数
0歳代	319	116	0
10代	532	33	0
20代	2667	154	8
30代	2055	213	18
40代	2422	377	58
50代	2865	740	148
60代	2372	814	195
70代	2357	983	230
80代	1617	751	104
90代	507	230	5
100超	19	9	0

\* 発症日不明も含む。年齢不明除く

赤色で囲った部分が20代、30代の酸素や人工呼吸器が必要だった数です。20代、30代の方でもみんなが軽症で済むわけでは決してないということです。

- ・年齢別の新型コロナの後遺症患者の割合を示したもの

年齢	調査対象となった患者数	後遺症を認めた患者数	後遺症を有する割合 (%)
20歳未満	2	0	0
20歳代	12	9	75
30歳代	6	5	83
40歳代	15	10	67
50歳代	10	9	90
60歳代	8	7	88
70歳以上	10	8	80
合計	63	48	76

調査対象となった患者数が少なく参考値となりますが、どの年代でも後遺症を認められた方がいること、20代や30代の若年層でも後遺症を有する割合は高いことが見てとれます。

注) 表・グラフなど東京 iCDC (東京都公式) のものを引用

持続する症状	症状によって影響を受けた患者さんの比率	症状が落ち着くまでの期間
<b>一般的な症状</b>		
全身倦怠感	15 ~ 87%	3ヶ月
呼吸困難感	10 ~ 71%	2~3ヶ月
胸部不快感	12 ~ 44%	2~3ヶ月
咳嗽	17 ~ 26%	2~3ヶ月
臭いがしない	13%	1ヶ月
<b>あまり一般的でない症状</b>		
関節痛、シッカ症候群、鼻炎、味覚異常、食欲不振、めまい、ふらつき、筋肉痛、不眠症、脱毛症、下痢	<10%	分かっていない (おそらく数週間)
<b>精神的および神経学的な症状</b>		
PTSD	24%	6週間から3ヶ月
記憶障害	18%	
集中力の低下	16%	
不安/抑うつ	22%	
生活の質の低下	>50%	分かっていない (おそらく数週間)

注) Up To Date より各国のデータなど引用